

「県政ガイドあいち 2026」表紙デザイン審査会講評

総評

伊藤 勇吉 審査員

今年も、たくさんの作品が集まりました。とても楽しく、興味あふれる審査となりました。少しですが新しい方向の作品も出始め愛知県をどのように表現するかの難しさが伺われます。今回は前年度と同じ方向性の作品が選ばれました。ただ選ぶ審査側としては、新しい切り口の作品を選ぶべきではないかと思われる審査でした。

田中 篤至 審査員

毎年、前年の入賞作品から得た構図や、新しい挑戦的な表現技法を採り入れた力作が並びます。審査員として上位作品を選ぶのは難しいことですが、楽しさも感じました。県政ガイドの表紙は、デザイナー個人の力量が試される「芸術作品」でありながら、一方で自治体からの依頼をデザインで表現する「仕事」としての両側面があります。「仕様書」と個の芸術性の両立を図る難しい作業だとは思いますが、よいできだと感じる作品が多く、例年以上にグランプリ作品を選ぶのは困難でした。

和 祐里 審査員

切り絵や水彩などの表現の挑戦が素晴らしく、今後の活動を応援したい作品がありました。レイアウトに悩み、何度も描き直し、時間をかけて丁寧に向き合っていることが感じられる作品は魅力的でした。デジタルツールはあくまで鉛筆と同じ道具です。ソフトが作り出す線に頼るのではなく、本当に描きたい自分自身の線を描けるようになるまで、道具を使いこなして日々手を動かし続けてほしいと思います。

グランプリ作品講評

伊藤 勇吉 審査員

今回グランプリの作品は、全体にまとまっていてパンフレットの表紙としては、完成度の高いデザインです。愛知県の特徴を楽しいイラストで表現されています。

田中 篤至 審査員

全体的に色調を落ち着いたブラウン系、グリーン系でそろえ、どんな年齢層でも見やすいデザインになりました。しゃちほこやタコ、名古屋コーチンなど、郷土をアピールするのに欠かせない「名物キャラ」たちのタッチも主張を抑えており、「大鍋」にひとまとめにするアイデアで、見る人に楽しさを感じさせました。愛知県のロゴを置くスペースもきちんと確保されており、行政が採用するデザイ

ンとして完成度が高いと感じました。

和 祐里 審査員

愛知の魅力を描いた一体感のあるイラストや、タイトルの配置、彩度の統一感、そして明度のメリハリ等全体的にバランスが良いでしょう。今後の成長のために、イラスト化する際には他者の作品や写真を参考にするのではなく、実物を観察して描くことを意識してください。そうすることで、選び取る線が確実に変わってきます。